

■豪州：ビクトリア州で、南半球最大の風力発電プロジェクト始動

豪州大手エネルギー事業者のAGL エナジーは2010年8月12日、ニュージーランド再エネ事業者のメリディアン・エナジーと、ビクトリア州南西部で計画されていた「マッカーサー風力発電プロジェクト」の実施に向けて契約を締結したと発表した。同発電所の最大出力は南半球最大となる42万kWで、導入コストは10億豪ドル（約760億円、両社が折半）の見通し。風力タービンを当初計画のSuzlon製S88型（出力2,100kW）から8月11日に販売が開始されたばかりのVestas製V112型（出力3,000kW）に変更し、基数を当初計画の174基（出力36.5万kW）から140基まで減らし、運転コストの大幅な低減を見込んでいる。風力タービンの納入・設置および技術サポート業務はVestas社が請け負い、2013年上半期までの竣工を目指して2011年第3四半期にタービンの設置が開始される予定。なお、同発電所での発電によって発行される再生可能エネルギー証書は、全てAGLエナジーが取得する。